地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施 設 名:認知症高齢者グループホーム 宇賀の杜・里 楽舎

認知症高齢者デイサービス 宇賀の杜 楽舎

施設種類:グループホーム・ 小規模多機能型居宅介護施設(該当に〇)

日 時: 令和7年9月26日(金) 14時~15時

会 場:認知症高齢者グループホーム 宇賀の里 楽舎 スタッフルーム

出席者(人数)

利用者代表	0人	高齢者あんしん支援 センター職員	1人
利用者家族	1人	出雲市職員	1人
地域の代表	1人	グループホーム 施設長・管理者他	4 人
代表取締役	1人	デイサービス 管理者	1人

(議題)

• 出席者紹介

- ・ グループホーム・デイサービス 宇賀の杜 楽舎の入居者利用状況説明 メイン議題「四季を感じられる食事作りをしよう!」について
- ・ 皆様からのコメント・アドバイス

(報告事項)

グループホーム杜、グループホーム里、デイサービスともに特に報告事項 はありません。

- ○グループホーム 宇賀の杜 利用状況(2025.9.26 現在)入居者 18 名 (東舎 9 名・西舎 9 名)男性 3 名 女性 15 名 平均要介護度 2.66最高年齢 99 歳 最低年齢 76 歳 平均年齢 87.1 歳
- ○デイサービス 宇賀の杜楽舎 利用状況現在登録者数 27名男性 10名 女性 17名 平均要介護度 2.30最高年齢 94歳 最低年齢 72歳 平均年齢 84.2歳
- ○グループホーム 宇賀の里 利用状況入居者 9 名男性 3 名 女性 6 名 平均要介護度 2.30最高年齢 94 歳 最低年齢 72 歳 平均年齢 86.7 歳

○メイン議題

「四季を感じられる食事作りをしよう!」

~実行機能障害のリハビリについて~

グループホーム宇賀の杜 東舎の令和7年度の支援目標を「四季を感じられる食事作りをしよう!」と定め、取り組みについて報告させていただきました。

食事作りではこれから訪れる季節を感じていただき、事前に希望をお聞き してメニューや材料、調理方法を一緒に考えて実施しました。

長いコロナ期間では食事作りに関する活動は中止しており、ユニット9名の利用者様全員での調理は上手く進行するのだろうか?など心配はありました。

調理場面では各個人に役割を持って取り組んでいただき、料理や手順を説明すると作業に移られました。

まとめ

全員の方が食事作りでは、視覚や職員の会話から情報を得て表情良く調理をされました。理念である「一瞬の笑顔を求めて」とあります。調理中のふとした瞬間や完成した料理の実食では皆様から「美味しい」のお声と共に多くの笑顔が拝見できる良き機会となりました。今後も日常の中で、利用者様・職員が一緒に考えて計画しながら、喜びを持って楽しく調理に参加していただける機会を作り、充実した毎日を笑顔で過ごしていただける支援を続けていきたいと思います。

〈利用者家族様代表(K 様)〉

・本日は参加して良かったです。家族として、母は母らしく暮らせたらと思います。発表の中で「一瞬の笑顔・・」と言われたことが印象的で地域、 行政、プロのスタッフの方々に見守られて生活していると感じました。

(平田高齢者あんしん支援センター様より)

・四季折々、皆さんで取り組むことが役割やリハビリにつながっていると思います。若い人へ昔話や遊びを伝えることで積極性や力となりお互いの刺激になると感じました。

(出雲市役所様より)

・今の生活があることを家庭などとのつながりや平和学習・後進育成からの つながりを感じた。グループホームやデイサービスの利用者様が、男性が 多いと感じた。

(取締役員より)

・4月から新設の小学校と早く交流ができ良かったと感じた。

(地域代表より)

9月、施設長に島根大学医学部看護科生徒の地域実習を受け入れていただき熱意のあるバイタリティーにあふれた講義をしていただきました。 大変参考になり好評でした。ありがとうございました。

4 校統合の新設小学校と交流され、西田地区は福祉関係の地域交流担当で もあり今後も続けていただきたい。

(楽舎より)

・貴重なご意見やアドバイスを頂きありがとうございました。 楽舎では今後とも利用者様の自立支援を大切にして、生活を支える姿勢で 毎日を笑顔で安全に過ごしていただける支援を続けていきたいと思います。

〈楽舎施設長より〉

・デイサービスは男性の利用者様が多く大きい声がでることや、身体が大きい為 BPSD の対応が難しいなどケアでは様々な場面もあるが色々な取り組みをすることで利用していただいている。

地域交流、若い人、看護大学の方、子供の頃から交流し学び、平和学習を継続し、皆様の橋渡しができたら良いと考えています。